

年間授業計画

科 目 名	公 共	単位数	2 単 位	学年・学 科	2 学年 全学科	展開	必修	選択
教科書名	高等学校 公共(帝国書院)			副教材名				
科 目 の 目 標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。							
学習内容と進め方	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の社会に関わる諸課題を追究・解決する能力を育成するための学習を行う。教科書とプリント、問題集を利用した学習を中心として行う。内容によってグループでの課題解決学習も行う。							
学 習 の 留 意 点	(1) 常に復習し、反復練習によって、問題を解く力を身につけさせる。 (2) 課題解決学習に取り組み、考察を深めさせる。							
月	単 元	学習	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)	
				1	2	3		
4	第1部1章1節青年期と社会参画 1 私たちの生きる現代社会 2 青年期について考えよう 3 ジェンダーについて考えよう	6	現代社会はどのような社会か 青年期の課題にどう向き合うか 多様な性のあり方が認められる社会の実現	○		○	自らの体験などを振り返り、人間としてのあり方生き方について理解している。	
5	第1部1章2節宗教・思想・伝統文化と社会 1 宗教について考えよう 2 日本の思想・伝統と文化を考えよう 第1部2章1節倫理的な見方・考え方 1 よく生きる 古代ギリシャの思想 2 人とは何か 古代中国の思想 3 動機と結果 近代西洋の思想 4 公平と正義 現代の思想	6	宗教が必要とされるのはなぜか 日本の思想・伝統や文化の特徴 人間とはどのような存在か よい行いのための判断基準にはどのようなものがあるか 公平な社会の実現のためには何が必要か	○	○		日本人の思想、文化や伝統についてその特色を捉えるために必要な知識を理解し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。 社会と人間に関わる古代の思想についての知識を理解し、その考え方を活用して、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
6	第1部3章1節社会の基本原則と憲法の考え方 1 近代立憲主義の原理と広がり 2 日本国憲法 3 平等に生きる権利 4 自由に生きる権利 5 人間らしく生きる権利	8	近代立憲主義とはどのような考え方か 日本国憲法の特徴はなにか 平等権・自由権・社会権とはどのような権利か なぜ新しい人権の保障が必要なのか	○		○	日本国憲法の成立過程や基本原則に関する知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
7～8	第2部1章1節法の意義と司法参加 1 社会規範と法・私たちの生活と法 2 契約の考え方・消費者の権利と責任 3 司法の役割	7	法律は私たちの生活においてどのような役割を果たしているのか				平等権・自由権・社会権・新しい人権の重要性に関する基本的な理解を踏まえ、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。 権利と義務の関係について主体的に考えている。」	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
9	第2部2章1節 民主社会と政治参加 1 政治と権力 2 議院内閣制と国会 3 権力分立と行政の役割 4 地方自治の役割 5 政党政治とメディア 6 選挙制度とその課題	8	政治権力は何のためにあるのか 国会・内閣の役割と課題 地方自治の役割と課題 政党の役割と日本の選挙制度	○	○		権力分立の考え方を踏まえ、立法と行政のしくみと活動についての知識を理解し身に付けている。 参政権を行使する主体として自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
10	第2部2章2節 国際政治の動向と平和の追求 1 国家と国際法 2 日本の主権と領土 3 平和主義と日本の防衛政策 4 これからの日本の安全保障 5 国際連合の役割と活動 6 紛争とテロリズム 7 核兵器と軍縮の課題	8	国際社会における国家の役割 現代の日本の領土と問題点 日本の平和と安全をどう守ればよいか 国連の活動目的 紛争やテロの原因 軍縮にはどのような課題があるか 国際社会の中での日本の役割	○		○	平和主義が誕生した歴史的背景と日本の防衛政策についての考察に必要な知識を身に付けている。 国家主権、領域、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
11	第2部3章1節 市場経済のしくみ 1 経済とその考え方 2 市場のメリットと限界 3 企業の目的と役割 4 金融の役割 5 政府の役割と財政の機能 6 日本の財政の課題 7 経済の変動	8	経済とはどのような活動か 企業の目的と役割 経済活動に金融が必要な理由 市場経済においての政府の役割と財政の機能、日本の財政の課題	○	○	○	市場経済の機能と限界、金融の働き、財政及び租税の役割に関する知識を身に付けている。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した経済主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	
12	第2部3章2節 豊かな社会の実現第2 1 産業構造の変化と職業選択 2 中小企業と農業 3 労働者の権利 4 雇用と労働に関する課題 5 社会保障の役割と課題	6	技術革新による産業構造の変化 中小企業や農業の強みと弱み 人口減少社会における雇用対策	○	○		職業選択、雇用と労働問題、社会保障などの問題や課題について理解し、必要な知識を身に付けている。 職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
1	部3章3節 国際経済の動向と格差の是正 1 国際経済のしくみ 2 国際経済の枠組み 3 地域経済統合 4 グローバル化と自由貿易協定 5 国際経済の変化と課題 6 経済格差の是正	4	国際経済にはどのような機関やルールがあるか 経済のグローバル化はどのように進みどのような影響を与えているか 経済格差の是正に対する国際社会の取り組み	○		○	国際経済についての必要な知識がある。 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む)などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
2		6						
3	第3部 持続可能な社会の実現に向けて課題探究	3		○	○	○	公共の精神をもった自立した主体として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
評価方法	(1) 評価の観点は下記の表の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。							
評価の観点	観 点	趣 旨						
	1 知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができるようにする。						
	2 思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力や表現する力を養う。						
	3 主体的に学習に取り組む態度	より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができたか。また、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めることができたか。						
評価基準	1 知識・技能	A 基本的な概念や知識を体系的に理解している。 B 基本的な概念や知識を体系的に概ね理解している。 C 基本的な概念や知識を体系的に理解が不十分である。						
	2 思考・判断・表現	A 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 B 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を最低限身に付けている。 C 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けていない。						
	3 主体的に学習に取り組む態度	A 社会や世界と関わるために、積極的に地理的知識を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしている。 B 社会や世界と関わるために、積極的に地理的知識を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしている。 C 地理的知識を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしてできない。						